

道徳科学習指導案

日 時 令和元年 11 月 28 日 (木)
5 時間目 (13 : 20 ~ 14 : 10)
対 象 第 3 学年 C 組 39 名
学校名 練馬区立開進第二中学校
授業者 教諭 手塚祐貴
会 場 1 階 3 年 C 組教室

1 主題名 法やきまりを守ろうとする心の根っこにあるものは何だろう。C 遵法精神、公德心

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 法やきまりを守ろうとする心の源となる良心に従い、主体的に行動しようとする態度を育てる。
- (2) 教 材 「闇の中の炎」(出典：「中学道徳 3 きみがいちばんひかるとき」光村図書)

3 主題設定の理由

本主題は、中学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示)道徳

特別の教科 道徳 第 2 内容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[10 遵法精神、公德心]

法や決まりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

を受けて設定した。

(1) ねらいとする価値について

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めることを考える内容項目である。

本教材では、意義の理解や、法やきまりを守る姿勢を身につけさせたりすることを直接的に扱っているのではない。正・不正について揺れ動く内面を深く追求させることによって、「良心」の存在やその働き、それに従って行動を決めることの大切さに気付かせ、自らの規範意識を醸成させていくことをねらいとしている。

法やきまりを他律的に守るだけでなく、「自分がだめだと思ったらだめなんだ」というような、「自分の良心に基づいた考えに背かない」という、主体的な態度や意識を育てていきたい。

(2) 生徒について

中学校生活も 3 年目となり、進路を決定する時期でもある。生徒は、視野を広げ、社会の様々な事

象を知り、自分なりの考えももつことができるようになってきている。その反面、自分で判断することの意味を履き違え、自分勝手な行動を取ったり、自分に都合のいい判断をしてしまったりすることも見受けられており、規範意識の醸成が求められている。本授業を通して、自らの内面にある良心に従って、主体的に判断し行動できる生徒を育成していきたい。

(3) 教材について

【教材の概要】

本教材は、主人公が、画集にある作品を参考に自分の作品を描こうとするが、次第に人の真似をしていることへの後ろめたさを感じて葛藤する姿を描いている。自分の心に迷いが生じたとき、決断させるのは自分のなかの良心である。正・不正の迷いが生じたとき、内面で自分自身に働きかけるのは、「打算」であり、それに反する「良心」である。その良心からの規範意識を主人公の立場に立って共感的に考えさせることのできる教材である。

【教材の活用の視点】

技法を身に付けるときなど、人の真似をして学ぶことは多いが、芸術作品や小説、作曲などの創作物の模倣は、道義的にも、また著作権などの面からも、よくないこととされている。他人の創作物をまねすることはどこまでなら許されるか。この揺れ動く内面を見つめながら、主人公は葛藤する。そして、この「良心」が源となって規範意識が強く働き、主体的な判断や行動へと結びつくのである。この教材は、主人公の立場に立って共感的に考え、良心を源とする規範意識の存在やその大切さに気付くことのできるものとなっている。

本教材は、他人の著作権の取り扱いに関する内容を扱っているが、学びのテーマに迫るためには、著作権に焦点を当てるのではなく、自分の良心に焦点を当てて考えさせていく。

【教材の分析】

場面や登場人物の言動	登場人物の心の動き	○基本発問 ◎中心発問	発問の意図
コンクールに出す作品の下絵が全然描けない。	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージが思い浮かばず不安がある。 ・期待に応えられなさそう で焦りを感じる。 		
ある画集の作品を参考にして下絵を描く。	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクールで入賞できるレベルの作品。 ・自分が納得できるくらいの作品ができそう。 	○画集の版画を見て、理沙は絵が描けると思ったときのような気持ちだっただろう。	・作品を真似て描くことに対しての罪悪感はなく、むしろ安堵感があったことを押さえる。
作品も仕上げの段階だが、筆が進まなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本当にこのまま絵を完成させてしまってもいいのかわく不安になる。 ・画集の作品を真似していることに悩み始める。 	○理沙の筆が進まなくなったのは、どのようなことを考えていたからだろう。	・絵を完成させることに後ろめたさを感じていることを押さえる。

画集の真似をすることの是非について父に相談する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやっていることは間違っていないと言ってほしい。 ・父の返答にほっとする。 		
父の「自分がだめだと思ったらだめなんだ。」という言葉が理沙の心に響く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が許せないことはやっつけてはいけないと思ひ直す。 ・自分に甘い判断をしていないか考える。 		
締切に間に合わないが、新たに作品を描く。	<ul style="list-style-type: none"> ・結果につながらなくても自分が正しいと思う生き方をするべきだと気付く。 ・自分の良心を大切にしたいから。 ・後ろめたさがなくなり、すっきりする。 	◎締切には間に合わないのに、夢中になれたのは、どのような気持ちに変わったからだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・法や決まりではなく、自分の規範意識に従って行動したことにより、自身の正しい生き方に気付き、晴れやかな気持ちとなっている姿を捉える。

4 年間指導計画における位置付け

- ・ 7月 主題名「自ら考え判断し、行動する」A自主、自律、自由と責任
教材名「知らないよ。」
ねらい「自ら考え、誠実に行動し、責任をもって役割を果たそうとする態度を育てる。」
- ・ 11月 主題名「法やきまりを守ろうとする心の源、とは何だろう。」C規範意識、公德心
教材名「闇の中の炎」
ねらい「法やきまりを守ろうとする心の源となる良心に従い、主体的に行動しようとする態度を育てる。」

5 指導の工夫

(1) 導入での経験想起

導入では、日常生活を取り上げ、生徒の日常から道徳的価値を振り返るような発問を設定した。生徒自身の経験の中で自分がどのように判断し、行動したのかを想起させることで、教材の内容に対して、より自分に置き換えて考えやすくする。

(2) 小グループによる話し合い活動

中心発問について考える上で、小グループによる話し合い活動を取り入れる。そうすることで、生徒全員が授業の中で発言の機会を得られるようにする。また、生徒自身の意見を他者に説明させることで、自分自身の中で考えを形にすることができ、対話的な学びとなることをねらう。また、小グループまたは学級全体で他者の意見を聞くことは、自分の考えを深めることにつながる。

(3) 板書の工夫

板書の際に、キーワードを整理した語句カードを用いることで、教材の内容や発問を理解しやすくする。また、時間やスペースを短縮し、生徒の意見をより多く板書できるようにする。

発問②、③では、「絵に関すること」、「心や生き方に関すること」に整理して板書し、生徒意見が見やすくなるようにし、生徒が自己の振り返りの際に活用できるようにする。

6 本時

(1) 本時の目標

法やきまりを守ろうとする心の源となる良心に従い、主体的に行動しようとする態度を育てる。

(2) 学習指導過程

	学習活動（○主な発問・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点 ★評価の観点
導入 5分	1 法やきまりの判断だけでなく良いことと良くないことを判断する心の根っこにあるものについて考える。	◇例を出すなど、簡易なものを想起させ、価値の導入にする。 ◇内面に関する事なので、無理に発表させないようにする。
展開 40分	2 「闇の中の炎」を読んで話し合う。 ○画集の版画を見て、理沙は絵が描けると思ったときどのような気持ちだっただろう。 ・がんばってよい作品を描こうと意気込む。 ・時間がないので焦っている。 ・先生や友達が驚くような作品が描けそうで期待している。 ○理沙の筆が進まなくなったのは、どのようなことを考えていたからだろう。 ・自分が描いている絵は、自分が描きたい絵ではない思ったから。 ・人の作品を写しているだけだと気付いたから。 ・見てもいない情景を絵に描いていけないと思ったのではないか。 ・自分の良心に従っていないと気付いたから。	◇大まかな登場人物と内容を振り返る。 ◇内容把握をスムーズにするために、文字カードを活用する。 ◇作品を真似て描くことに対しての罪悪感はなく、むしろ安堵感があったことを押さえる。 ◇考えさせたのち、挙手または指名で発表させる。 ◇絵を完成させることに後ろめたさを感じていることを押さえる。 ◇画集をヒントに喜んで描き始めたときからの心の変化を押さえる。 ◇適宜時間を取ったのち、ペアで意見交流を行わせる。話合いの内容も含めて、挙手または指名で発表させる。

	<p>◎締切には間に合わないのに、夢中になれたのはどのような気持ちに変わったからだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モヤモヤせずに自分の作りたい作品がきつと作れるという気持ちになった。 ・終わらなくてもいいから、堂々と自分の作品を進めようと思う気持ちになった。 ・悩みから解放されたことですっきりして、絵を描くことに楽しさを感じられた。 ・たとえコンクールの結果につながらなくても、自分が正しいと思う生き方をすべきだと気付いてせいせいした気持ち。 <p>○理沙のように、法やきまりの判断だけでなく良いことと良くないことを判断する心の根っこにあるものに従うためにはどんなことが大切だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・責任をもって生活すること。 ・他人の意見だけでなく、自分の良心を大切にすること。 ・誘惑に負けないようにする。 	<p>◇法やきまりではなく、自分の規範意識に従って行動したことにより、自身の正しい生き方に気付き、晴れやかな気持ちとなっている姿を捉える。</p> <p>◇3、4人のグループで意見交流を行い、自分の意見を発表させる。話合いの内容も含めて、ワークシートに自分の意見を書かせたのち、印象に残った他の人の意見も書かせる。その後、挙手または指名で自分の意見を発表させる。★(イ) 観察</p> <p>◇理沙の発言の「でも……。」の「……」にはどのような思いが込められているか、切り返しの発問をする。</p> <p>◇主題に直接関わる内容なので、自分の言葉で表現させる。</p> <p>◇心の根っこにあるものを挙げさせた後に、それを発揮したり、従うためにはどのようなことが大切なのかを自己内省で考えさせる。★(ア) ワークシート</p>
<p>終末5分</p>	<p>3 本時のまとめ</p> <p>○今日の授業を通して、考えたことや、感じたこと、これからは生かしたいことをワークシートに書く。</p>	<p>◇授業で学んだことや感じたことなどを記述するように促す。★(ア) ワークシート</p>

(3) 評価

- (ア) 現在の自分自身を振り返り、法やきまりだけでなく自分の良心に従って生きていくことの大切さについて考えようとしているか。
- (イ) 教材の内容について、自分から意見を他者に伝えようとしたり、友達の見解を聞いたりし、自分と違う感じ方や考え方を理解しようとしているか。

(4) 板書計画

